

先進優良事例④ 新潟花き中継拠点化によるトラックドライバーの拘束時間削減

「サプライチェーン強化」に関する実証

新潟花き中継拠点化検討協議会

背景・目的

- 今後とも持続可能でかつ効率性の高い花き物流体制を構築する観点から、産地、卸売市場と物流事業者の連携を強化し、中継拠点（ストックポイント）を新潟に設け、東北・北陸・北海道の花きと関西以西を結ぶ長距離輸送を可能とする安定したサプライチェーンを確保する体制を整備する。
- 新潟に中継拠点を創ることによって、今までにない花きの新しい需要や取引を創出することに繋げ、花き業界の発展を目指す。

取組概要

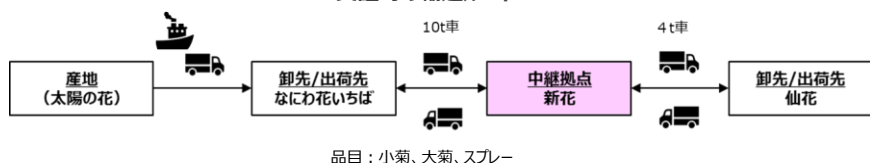
【実施内容】
中継輸送による物流改善

関西以西（九州・沖縄を含む）の花きを(株)なにわ花いちばで集荷し、東北・北海道との間に位置する(株)新花を中継拠点として活用し、新潟向けの花きに加え、新潟以北向けの花きと併せて台車を用いて効率的に輸送する。これによってトラックドライバーの拘束時間を短縮し、花き物流の改善に取り組む。

【実施方法】
実証実施

実証実施時期：令和6年1月29日～2月12日

実証時の輸送ルート



協議会体制図

代表

・(株)新花（卸売会社）

事務局

・(株)新花（卸売会社）

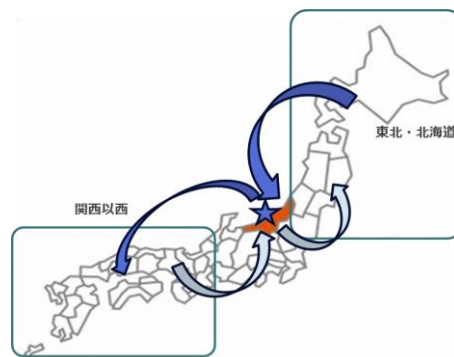
メンバー

・(株)なにわ花いちば（卸売会社）
・(株)仙花（卸売会社）
・大阪フラワーサービス(株)（市場での商品管理）
・(株)IFN（輸送会社）
・新潟日植運輸(株)（輸送会社）
・光運輸(株)（輸送会社）
・新潟県（自治体）
・新潟市（自治体）

新潟花き中継拠点化検討協議会

ポイント

新潟を中継拠点とした地方市場間の
物流網構築（下記イメージ）



物流2024年問題を見据えて、花きの地方市場間の流通を維持・継続及び新規に拡大させるために新潟に中継拠点を置き、手荷役の効率化を図り、東北・北陸地域と関西以西の物流を滞りなくつなげる役を目指す。

＜新潟を中継拠点化とする理由＞

- ① ドライバーの拘束時間の上限内で、陸路での輸送は大阪⇄新潟が1回の輸送での最大距離にあたる。
- ② 新潟に中継拠点ができることで、関西以西と東北地域を結ぶルート（日本海側）の選択肢を増やすことに繋がる。

取組成果

- 中継拠点設置等により大阪から新潟経由、仙台までの輸送にかかるドライバーの延べ拘束時間を**18.4%**削減した。また中継拠点の新潟でドライバーを交代させることで、一人あたりの拘束時間の削減にもつながっている。（詳細下記参照）
 - 本実証はすべて**台車を活用した輸送を実施し、ドライバーの手荷役時間削減に大きな効果**があった。
 - 本実証関係者間においても、2024年問題を踏まえ、ドライバーの拘束時間削減のために新潟の中継拠点化の必要性を感じている。
- 現状（令和5年度）：平均15.7時間（運航時間13時間・手荷役2.7時間）
■ 目標（令和8年度）：平均11時間（削減率30%）
■ 実績値（令和5年度）：**平均12.8時間（削減率18.4%）**

検証方法：現状は輸送ルートがない(株)なにわ花いちばから(株)新花経由(株)仙花の**日本海側**のルートについて、試算による運行時間と手荷役時間（4tべた積み）の合計時間と5回の実証結果の平均値を比較。